

会社一覧 (ファスニング事業および事業運営に関わるその他事業)

YKK株式会社	YKKヨーロッパ社	YKKバングラデシュ社
YKKスナップファスナー株式会社	YKKホールディング・ヨーロッパ社	YKKベトナム社
YKK韓国社	YKK英国社	YKKタイ社
YKK台湾社	YKKデンマーク社	YKKフィリピン社
YKK不動産株式会社	YKKドイツ社	YKKスリランカ社
YKKビジネスサポート株式会社	ダイナート社	YKKマレーシア社
株式会社カフェ・ボンフィーノ	YKKシュットコ・ファスナーズ社	YKKインドネシア社
株式会社YKKツーリスト	YKKポーランド社	YKKジブコ・インドネシア社
株式会社エッセン	YKKオランダ社	YKKオセアニア社
黒部エムテック株式会社	YKKフランス社	ゴールデン・ヒル・タワー社
黒部クリーンアンドグリーンサービス株式会社	YKKチェコ社	YKKディベロップメント・シンガポール社
黒部モビリティサービス株式会社	YKKオーストリア社	YKKアルミニウム・オーストラリア社
YKK六甲株式会社	YKKルーマニア社	YKKGPSクイーンズランド社
YKKコーポレーション・オブ・アメリカ	YKKイタリア社	YKK中国投資社
YKK U.S.A.社	YKKメディテラネオ社	大連YKKジッパー社
テープ・クラフト社	YKKスペイン社	上海YKKジッパー社
YKKカナダ社	YKKポルトガル社	YKK上海トレーディング社
YKKメキシコ社	YKKギリシャ社	YKKスナップファスナー無錫社
YKKスナップファスナー製造メキシコ社	YKKトルコ社	蘇州YKK機械製造会社
YKKホンジュラス社	YKK中東社	YKK廈門トレーディング社
YKKエルサルバドル社	YKKチュニジア製造会社	YKK深圳社
YKKコロンビア社	YKKトレーディング・チュニジア社	YKK深圳トレーディング社
YKKブラジル社	YKKモロッコ社	YKK香港社
吉田ノルデステ社	YKKエジプト社	
YKKチリ社	YKKケニア社	
YKKアルゼンチン社	YKKサザン・アフリカ社	
YKKインシュランスカンパニー・オブ・アメリカ	YKKホールディング・アジア社	
YKK農牧社	YKKパキスタン社	
	YKKインド社	

報告対象範囲

報告対象期間

- 2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)

報告対象範囲

YKKサステナビリティビジョン2050

- ファスニング事業を中心に事業運営に関わるその他事業を含む

環境 (Environment)

- ファスニング事業を中心に事業運営に関わるその他事業を含む
対象範囲が異なる場合は適宜注釈等を付記

社会 (Social)

- データ範囲を個々に記載

ガバナンス (Governance)

- データ範囲を個々に記載

財務情報

- YKKおよび連結子会社105社、および持分法適用関連会社1社について、
グループ連結ならびにセグメント(ファスニング事業/AP事業/その他事業)ごとに開示

YKK精神

「善の巡環」

他人の利益を図らずして自らの繁栄はない



企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。YKKの創業者吉田忠雄は、事業を進めるにあたり、その点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって、事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり社会貢献できるという考え方です。このような考え方を「善の巡環」と称し、常に事業活動の基本としてまいりました。私たちはこの考え方を受け継ぎ、YKK精神としています。

経営理念

「更なるCORPORATE VALUEを求めて」



YKKは、更なる **CORPORATE VALUE (企業価値)** を求めて、
7つの分野に新たな **QUALITY (質)** を追求します。

YKKグループは、お客様に喜ばれ、社会に評価され、
社員が誇りと喜びを持って働ける会社でありたいと考えています。
そのため的手段として、商品、技術、経営の質を高めていきます。
そして、これらを実践するにあたって常に根底にあるのが「公正」であり、
これを価値基準として経営判断を行っていきます。

コアバリュー

失敗しても成功せよ/
信じて任せる

品質に
こだわり続ける

一点の曇りなき
信用



YKK 創業者吉田忠雄

YKK創業者吉田忠雄の思想

本業を通じた持続可能な社会への貢献を常に追求し続けているYKK。企業活動のすべての根幹にあるのが、YKK創業者吉田忠雄の企業精神「善の巡環」です。「他人の利益を図らずして自らの繁栄はない」という思想は、社会や顧客・関連業界、そして社員と共に栄え続けようとするYKKの企業精神を鮮明に表しており、「サステナビリティ」と非常に親和性の高いものと捉えています。吉田忠雄は、この企業精神の本質を、さまざまな言葉によって繰り返し社員に伝えてきました。

「善の巡環」につながる「事業とは橋を架けるようなもの」と説いた言葉は、社会全体の利益を図らない限り、自

らの繁栄もないというサステナビリティ全体の考え方に通じます。「清らかな湧き水のごときものづくり」、「工夫で活かせばゴミも立派な資源に」という言葉は環境配慮につながり、「大樹より森林の強さを」という言葉は、人権と個性の尊重につながります。

YKKは創業者の時代からサステナビリティと親和性の高い思想を経営の根幹とし、80年以上たった今の時代においてもその思想を継承し続けています。

事業とは 橋を架けるようなもの



(1965年7月)

事業というものは、自分が利益を上げるだけではなく、世の中に貢献する、人類社会に役立つということを大きく織り込んでやらない限り、それは決して繁栄しないと思います。その土地の産業に寄与し、その土地の経済に寄与し、それによって、その土地の人々の暮らしを豊かにすることができれば、こんな幸せなことはありません。発展途上国には豊かな文明のめぐみを、先進国にはさらに新しい豊かさを運ぶYKKの“橋”づくりはこの先も続いていくことでしょう。

工夫で活かせば ゴミも立派な資源に



(1971年1月)

まず、自分の身近からゴミをどう上手に処理するかを考え、みんなで実行することが大切なのではないのでしょうか。もし、今のままに地下資源を掘り続け、木を切り倒し、魚を捕り、魚の住めない海を広げ続けることは、人類の破滅を意味することになります。

清らかな湧き水のごとき ものづくり



(1984年1月)

すばらしい泉のように、豊かな本物が出てくる。これが本当の豊かさです。大切なのは貴重な資源の口スを出さないこと。明らかに立派な商品になるはずですよ。

大樹より森林の強さを



(1970年7月)

経験を積んで年輪を重ねた太い木も、若くて細い木もあります。背の高い木、低い木もあります。それぞれの個性によってその得意とする能力を発揮して上手に働き、だれに支配されるのではなく一緒に前進します。

「善の巡環」から、 サステナブルな未来へ

YKK sustainability vision 2050

YKK's action plan for a sustainable future



気候

- ・ 温室効果ガスの排出の削減
- ・ 再生可能エネルギーの採用増

地球規模で起きている気候変動を抑制すべく、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べ2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力を追求するパリ協定の目的を支持し、ファスニング事業における温室効果ガスの削減に取り組みます。



資源

- ・ 持続可能な資源の採用増

ファスニング事業で製造される商品や、使用される梱包材の材料における環境負荷を低減し、持続可能な素材へと移行することで、商品のライフサイクルを通じて発生する廃棄物を削減、石油由来材料使用の削減、および循環型社会の実現への貢献を目指します。



水

- ・ 水の利用量の削減
- ・ 排水管理の強化

深刻な水資源の枯渇・劣化問題に対し、ファスニング事業において取水量の削減や排水の環境負荷低減等に取り組みます。



化学物質

- ・ 化学物質の管理と削減

将来世代にわたり豊かな生活を残すため、ファスニング事業に関わる化学物質による環境への影響・負荷を最小限にとどめます。



人権

- ・ 人権の尊重と公正で安全な労働環境の維持

全ての人間の尊厳と権利を尊重するという世界共通の理念を重要視し、多様で持続可能な社会に貢献します。

社会、そして自然環境と 共存・共栄する企業として 「気候中立」を目指す

SDGsとの関係



中期方向性

サステナビリティ強化

サステナビリティを軸とした経営 ～「YKKサステナビリティビジョン2050」～

YKKは、2020年10月に「YKKサステナビリティビジョン2050」を策定し、5つのテーマ「気候」「資源」「水」「化学物質」「人権」でそれぞれ目標を設定し、関連するSDGsの達成と2050年までの「気候中立」の実現を目指しています。

2022年度は、世界の各地域におけるサステナビリティ推進体制のもと、気候変動や資源リサイクルなどの課題に対する取り組みを強化しました。省エネ生産設備や太陽光発電などへの投資を促進し、気候変動問題をはじめとした社会課題の解決や健全な地球環境の実現を目指しています。



サプライチェーン全体での取り組みを強化

執行役員 サステナビリティ推進室長
吉岡 麻子

サステナビリティは、YKK精神「善の巡環」—他人の利益を問わずして自らの繁栄はない—にも通じる考え方で、YKKのDNAに組み込まれているといえます。自社での取り組みに加えて、サプライチェーン全体で温室効果ガス排出を削減することが重要になっています。お客様、お取引先、ならびに外部業界団体とも協力して、地球環境や社会課題解決に向けて積極的な取り組みを進めています。

サステナビリティ関連投資(設備投資)

86億円(2023年度計画) 内 CO₂排出削減関連投資 60億円

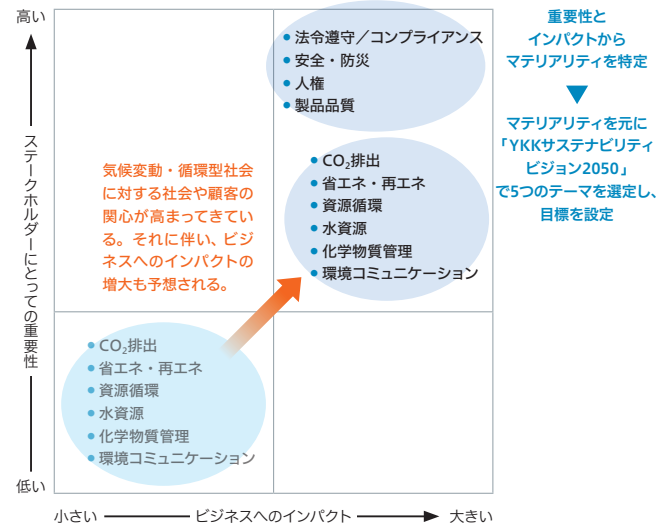
◎「YKKサステナビリティビジョン2050」～2050年までに「気候中立」を実現～

テーマ	目標	SDGs
気候 温室効果ガスの排出の削減 再生可能エネルギーの採用増	自社およびサプライチェーンにおけるCO ₂ をはじめとした温室効果ガスの排出量を削減 ・2030年までにScope1, 2で50%削減(2018年比) ・2030年までにScope3で30%削減(2018年比) 2050年に向け、温室効果ガス排出ゼロ(カーボンニュートラル)を目指す	
資源 持続可能な資源の採用増	ファスニング製品の繊維材料を、2030年までに100%持続可能素材(リサイクル材、自然由来材料など)に変更 ファスニング事業で使用される全てのビニール/プラスチック製梱包材を、2030年までに持続可能素材や、回収・再利用など、持続可能な形態に変更 全ての製造拠点において、埋め立て、あるいは焼却される廃棄物の排出量を削減 2030年までに、廃棄物の再資源化率を90%まで向上	
水 水の利用量の削減 排水管理の強化	水資源問題が懸念される地域の製造拠点において、水使用の効率化・再利用などの取り組みを通じて、取水量を削減 政府の規制および、ZDHC(有害化学物質排出ゼロ)のような業界基準を基に制定した自社基準に従い、全ての製造拠点において排水管理を徹底	
化学物質 化学物質の管理と削減	ZDHC(有害化学物質排出ゼロ)のMRSL(製造時制限物質リスト)などの業界基準を基に制定した自社基準(YKK RSL)に従い、製品製造における入口から出口までの化学物質使用を管理し、化学物質の使用削減を更に進める OEKO-TEX® STANDARD 100のような繊維の安全性の国際規格を遵守し、製品における規制物質の使用を廃止 有害化学物質を削減し排除するような新しい製造方法を開発	
人権 人権の尊重と、 公正で安全な労働環境の維持	多様性を認めた包括的な人権の尊重と労働環境の整備の徹底により、一人ひとりが個性を活かして働ける安心安全な職場環境をサプライチェーン全体で形成し、健康で幸せに満ちた生活を支援 YKK精神「善の巡環」とISO26000に基づいたYGCC(YKK Global Criteria of Compliance)監査を全YKKグループの製造拠点を中心に実施し、第三者機関による定期的な監査も実施することで、透明性を維持しつつ持続可能な活動への更なる改善を行う	

サステナビリティビジョン策定プロセス

YKKの主要な取引先の一つであるファッション業界では、旧来の大量生産、大量消費、大量廃棄のビジネスモデルが環境に与える影響が大きな問題となっており、CO₂排出削減や水資源管理、化学物質管理、資源の持続的活用などの環境課題に対応することの重要性が増えています。また、人権の尊重や安全な労働環境の整備といった社会・労務課題への対応も不可欠です。このような地球規模の社会的課題への対応の重要性は、ファッション業界のみならず、さまざまな産業においても同様であり、YKKも産業を構成する企業の責務として、これらの地球環境や社会的課題の解決に向けて積極的な取り組みを進めることを目指しています。そのような背景から、YKKでは2020年10月に「YKKサステナビリティビジョン2050」を策定し、環境課題と社会・労務課題の双方におけるマテリアリティ（重要課題）として「気候」「資源」「水」「化学物質」「人権」の5つのテーマを選定しました。それぞれのテーマで目標を設定し、関連するSDGsの達成に向けて取り組んでいます。

① マテリアリティ分析（重要課題の特定）



2022年度実績	2023年度計画
<ul style="list-style-type: none"> Scope1, 2における温室効果ガス排出量 289,543t (基準年2018年比 46.9%削減) Scope3における温室効果ガス排出量 690,418t (基準年2018年比 20.9%削減) 使用電力全体に占める再エネ比率 46.1% 再エネ100%で稼働する拠点数 31 太陽光発電設備導入拠点数 21 	<ul style="list-style-type: none"> SBTより「1.5°C目標」認定を受けた2030年排出削減目標の達成に向けた施策の継続的実行 Scope1, 2における温室効果ガス排出量 2023年度 432,241t以下 (基準年2018年比 21.0%以上削減) Scope3における温室効果ガス排出量 2023年度 764,069 t以下 (基準年2018年比 12.5%以上削減)
持続可能素材の割合 26% (前年比+14ポイント)	持続可能素材の割合 2023年度 41%
持続可能な形態の梱包材への切り替え実績 27.6%	プラスチック製内装包材の持続可能素材への更なる切替え
埋立廃棄物量 6,282t (前年比-525t)	廃棄物原単位 2023年度 4%削減 (前年度比)
廃棄物の再資源化率 87.3% (前年比 +0.3ポイント) 再資源化率90%達成の目標年を、2030年から2025年に前倒し	廃棄物の再資源化率 88.0%以上
取水量 10,086千t (2018年度比 -1,338千t)	取水量原単位 2%削減 (2022年度比)
ZDHC (有害化学物質ゼロ) のファスナーやボタンを対象にしたガイドラインの作成に向け、ZDHCと協働していくことを決定	業界における排水管理基準を基に改定した社内排水管理ルールの実用開始
<ul style="list-style-type: none"> YKK RSL年次改定に、顧客の要望に基づきAFIRM RSLと法規制対応としてPFAS (有機フッ素化合物) を追加 製造工程で使用する化学物質の管理にZDHC MRSLの適用を決定 	<ul style="list-style-type: none"> YKK RSLの年次改定とサプライヤーへの周知、適合調査の実施 AFIRM RSL試験および全フッ素試験実施 製造工程で使用する化学物質のZDHC MRSLへの適合性レベルの確認と導入展開 ZDHC MRSL適合性レベル未確認品に対して、サプライヤーと連携した適合分析
<ul style="list-style-type: none"> 新規商品開発や材料変更時の規制物質管理を開発フローへ落とし込み OEKO-TEX® STANDARD 100認証の定期更新を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 新規商品開発や材料変更時の規制物質管理項目にAFIRM RSL試験実施を追加 OEKO-TEX® STANDARD 100認証の定期更新を実施
新めっき技術 AcroPlating® で生産する商品拡充	大気への排出量の多い化学物質削減としてDMF (ジメチルホルムアミド) 削減に向けた開発
<ul style="list-style-type: none"> YGCCセルフチェック／監査を対象全拠点で実施 YGCC監査項目および対象の見直し・修正 YKKグループ人権方針の改定 	<ul style="list-style-type: none"> YGCCの実施およびCSR調達の推進によりUNGPで求められる人権侵害リスクの特定・評価を継続する 取引先が利用できる人権関連苦情相談窓口を拡充する

■ 加盟団体・イニシアティブ等

「SBT (Science Based Targets) イニシアティブ」による「1.5°C目標」の認定取得

YKKの2030年度に向けた温室効果ガスの削減目標が、国際的な団体の「SBTイニシアティブ」より、気候変動による世界の平均気温上昇を産業革命前と比べ1.5°C未満に抑えるという「1.5°C目標」であると認められ、認定を取得しました。(2021年3月)



「ネットゼロ・リカバリー」に参加

「SBTイニシアティブ」と国連・グローバルコンパクトが2020年5月19日に発表した「ネットゼロ・リカバリー」声明に参加しました。本声明は、2050年までにCO₂排出量を実質ゼロにするという気候変動対策の目標と、コロナ禍からの経済復興を整合させるという考え方に基づくものです。

「ファッション業界気候行動憲章」に署名

国連気候変動枠組み条約事務局によるファッション業界での取り組みを定めた「ファッション業界気候行動憲章」に2020年3月に署名しました。この憲章は、パリ協定の長期目標に基づき、2030年までに温室効果ガス(GHG)の総排出量の30%削減を達成し、2050年までに実質ゼロにすることに焦点を当てています。



「Sustainable Apparel Coalition」加盟

SACは、世界中の製品が環境や社会に与える影響を軽減するために活動しているアパレル業界団体で、YKKは2018年に加盟しました。YKKは、世界中のアパレルメーカー、小売業者、製造業者、素材メーカー、研究所、政府機関等とともに、アパレルや靴製品、繊維産業におけるサプライチェーンの持続可能性の向上に取り組んでいます。



「ジャパンサステナブルファッションアライアンス」加盟

サステナブルなファッション産業への移行を推進することを目的としている「ジャパンサステナブルファッションアライアンス」に2021年9月に正会員として加盟しました。このアライアンスは、「適量生産・適量購入・循環利用によるファッションロスゼロ」と「2050年カーボンニュートラル」を目標にしています。

「エレン・マッカーサー財団ネットワーク」加盟

YKKは以前よりエレン・マッカーサー財団のネットワークに加盟する多くのファッションブランドと連携し、ファッション産業におけるサーキュラーエコノミー(循環型社会)の実現に向けて取り組んできました。「YKKサステナビリティビジョン2050」で掲げる「循環型社会の実現への貢献」における取り組みをより加速させるために2022年4月に加盟しました。

「生物多様性のための30by30アライアンス」に参画

2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として保全する30by30目標の達成に向けた仕組みの構築を目指す「生物多様性のための30by30アライアンス」に2022年8月に参画しました。YKKは本アライアンスへの参画を通じて、自然との共生を目指す取り組みとして黒部事業所に整備したYKKセンターパークふるさとの森の国際認定取得による目標への貢献を目指しています。

「国連生物多様性条約(CBD) COP15に向けた企業声明」に署名

自然破壊からの回復と生態系保護のための包括的アクションを企業に求める国際的な連合体「Business for Nature」が、2022年に開催の国連生物多様性条約(CBD)の第15回締約国会議(COP15)において、企業等が生物多様性の影響や依存度を評価し、2030年までの開示義務化を採択するよう呼びかけた企業声明に賛同・署名しました。

■ 表彰・受賞実績（2022年度）

詳細は、ウェブサイト「ニュースリリース・最新情報」をご覧ください。

https://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/g_news/index.html

受賞年月	表彰・受賞名称および理由	対象	主催
2022年5月	富山県立大学との共同研究で学生優秀発表賞、学生優秀発表指導教員賞	YKK	公益社団法人 日本設計工学会
2022年6月	第18回日本心臓財団小林太刀夫賞(黒部健康管理センター)	YKK	公益財団法人 日本心臓財団
2022年6月	精密測定技術振興財団 品質工学賞 銀賞	YKK	公益財団法人 精密測定技術振興財団
2022年9月	2022 深圳企業 500 強選出	YKK 深圳社	深圳市企業聯合会、深圳市企業家協会
2022年11月	2022 年大中華地域卓越雇用主賞	上海 YKK ジッパー社	2022 中国人的資本フォーラム
2022年11月	2021 年度浦東新区先進製造業の突出した貢献 20 強選出	上海 YKK ジッパー社、YKK 中国投資社	上海市浦東新区人民政府
2022年11月	2021 年度浦東新区経済突出貢献賞	YKK 中国投資社	上海市浦東新区人民政府
2022年11月	「YKK デジタルショールーム」Phoenix Award(ウェブ/デジタルプラットフォーム部門)	YKK	米国広報協会ジョージア支部
2022年12月	CDP「2022 年度の気候変動に関する調査」(A マイナス)	YKK	CDP
2022年12月	企業の環境対策格付け(ブルー)	YKK インドネシア社	インドネシア国環境林業省 (KLHK)
2022年12月	2021 年～2022 年度 全国(深圳) 優秀外商投資企業選出(調和労働関係促進賞、グリーン低炭素促進賞、安全環境保護奨励賞、双優企業賞)	YKK 深圳社	中国外商投資企業協会、深圳外商投資企業協会
2022年12月	Great Place to Work 2022 Award(Community 部門)	YKK ポルトガル社	Great Place To Work®
2023年1月	2022 宝安区五類企業 100 強選出(工業企業 100 強、增加值企業 100 強、対外貿易企業 100 強)	YKK 深圳社	深圳市宝安区工業和信息化局
2023年3月	CDP「サプライヤー・エンゲージメント評価」(最高評価「サプライヤーエンゲージメント・リーダー」)	YKK	CDP